

地域から職域に向けた大腸がん精密 検査受診向上対策



鶴岡地域は地域連携先進地 ←



鶴岡地区医師会(庄内保健所)松田 徹
QC委員会

はじめに

県と県医師会の検診委員会は 相互乗り入れ

【県】生活習慣病検診等管理指導協議会 (消化器部会)

データ管理、調査、市町村への通知、等

オブザーバー参加
6検診機関

【県医師会】消化器検診中央委員会

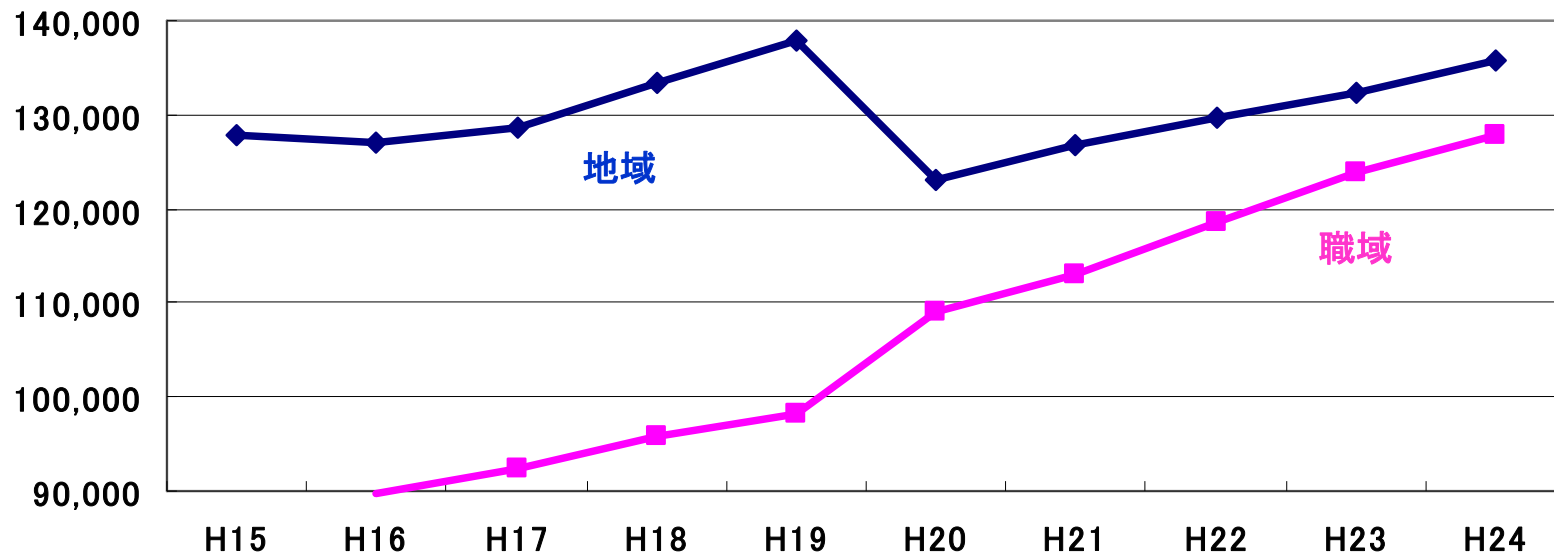
諸対策の実施、調査、たよりの発行、等

オブザーバー参加
県担当課
4検診機関

“諸対策”については県医師会HP(たより)参照

http://www.yamagata.med.or.jp/modules/main_contents/shiryou.html

大腸がん検診受診者数の推移



山形県集計

庄内町における「がん検診向上モデル事業」

庄内地域の課題：①がん死亡率が県平均より高い
②がん検診受診率が目標を下回っている

がん検診実態アンケート調査

H21実施

検討部会（地域関係者）

「職場でがん検診の受診機会が無い従業員」が課題として抽出

- 働く人特有の未受診理由（忙しい、休み取れない）
- 「土曜・日曜」検診へのニーズ
- 「早朝」検診へのニーズ
- 女性医師・技師へのニーズ
- 女性特有の阻害要因（男女一緒の受診がイヤ）
- 他者（家族等）からのアプローチ

クイック検診

- 待ち時間縮小のための「**時間帯検診**」
- 仕事が休みの日も受診できる「**土曜・日曜検診**」
- 仕事前に受診できる「**早朝検診**」

レディース検診

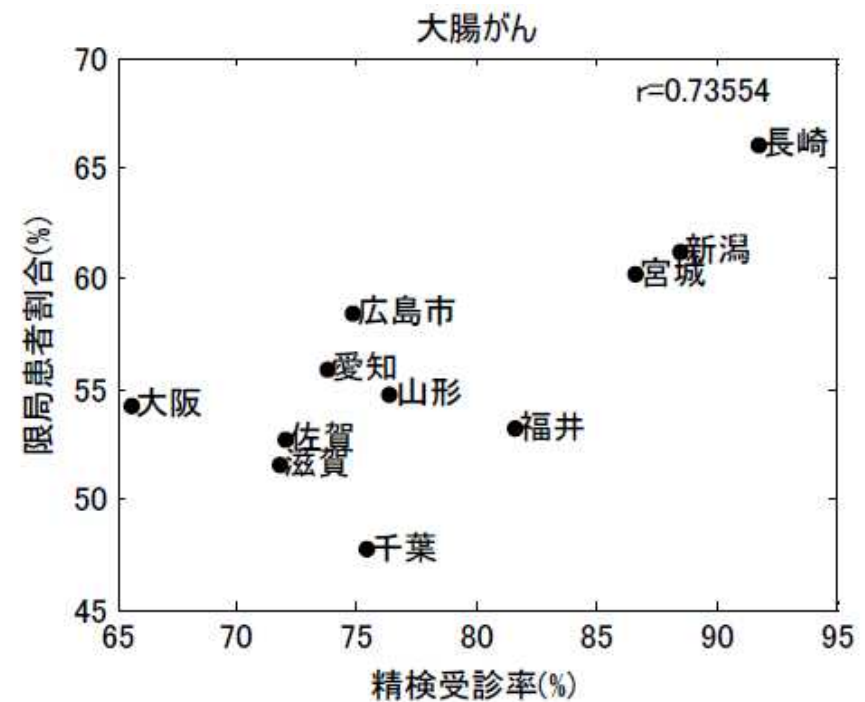
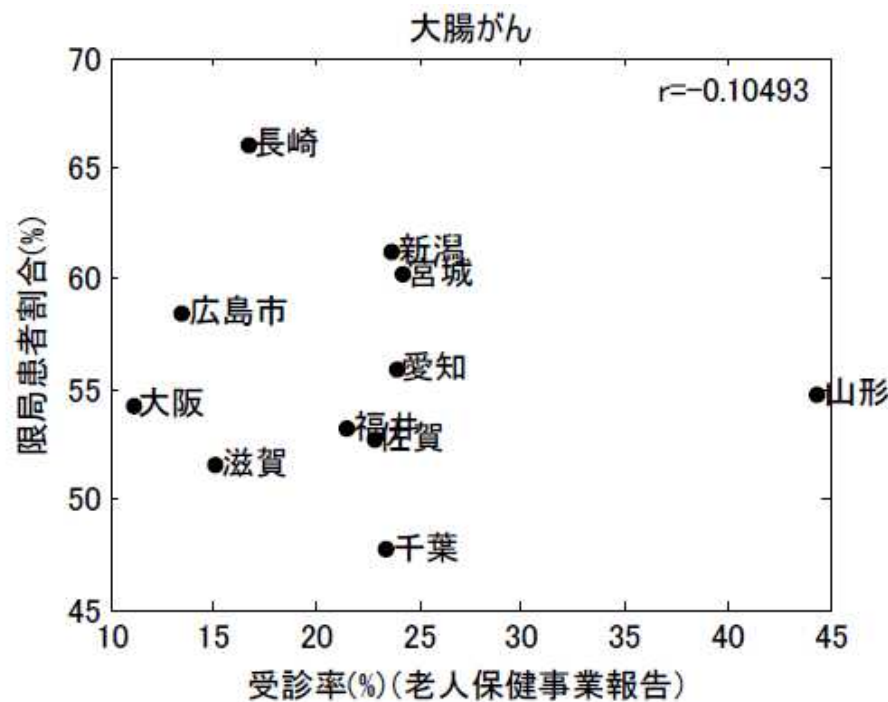
- 受診者が「**女性のみ**」
- 「**女性医師・女性技師**」による検診
- 仕事が休みの日も受診できる「**土曜・日曜検診**」
- 「**託児**」「**送迎バス**」

子どもから家族への受診勧奨

小学生(子ども)から家族(父母、祖父母)へ受診を勧める**メッセージを盛り込んだパンフレット**を、小学校の協力を得て配布。

詳しくは、報告書第1章～第2章

(1999年)



大腸がん検診受診率(老人保健事業報告)および精検受診率と限局患者割合の関係
(図中の r は相関係数)

⇒地域がん登録から受診率が良くても精検受診率が悪いと、
がん対策としては不十分なモデルとして注目されてきた。

小括1

- * 本県のがん対策には県医師会が大きく関与している。
- * 大腸がん検診の精検受診率向上は大きな課題である。
- * 鶴岡地域は地域・職域連携も活発で、同課題に取り組むに最適な場所である。

導入プロセス

全国との比較

平成23年度全国集計で、大腸がんの精検受診率は地域71.57%、職域37.61%

山形県の精検受診率は総計で66.8%
(最高は滋賀県78.0%、最低は京都府12.7%)と良好ではなく、東北では3位

平成23年度消化器がん検診全国集計資料集
日本消化器がん検診学会

職域大腸がん検診成績（平成24年度）

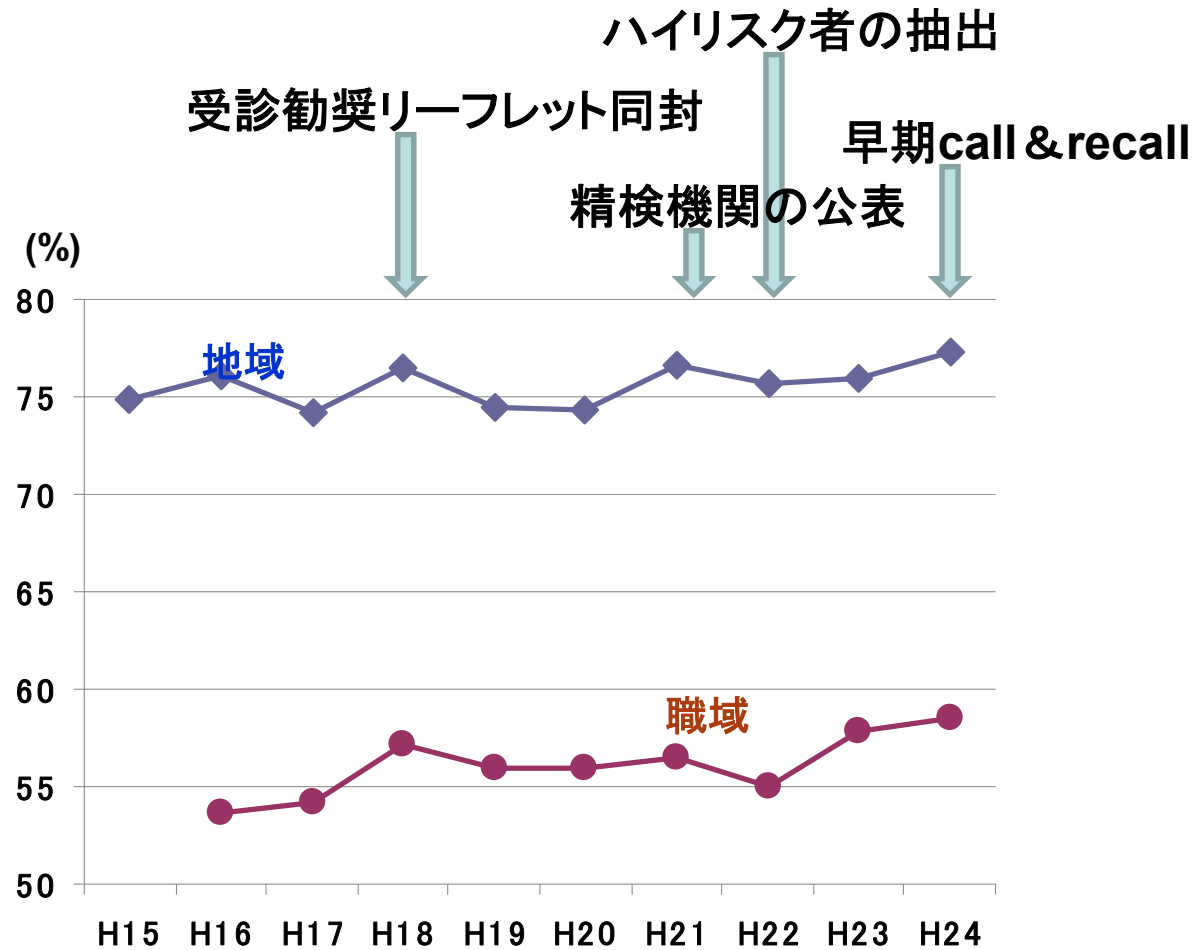
@職域大腸がん検診**受診者数**は男性は地域よりも多く、女性は地域よりも少なく計127,711名であった。発見大腸がん数は職域95名、地域250名（合計345名）であった。

@**要精検率**は検診センター毎の差が大きく、最高5.7%と最低3.9%で、全体で5.0%（地域6.3%）であった。

@**職域精検受診率**は全体で58.5%で、検診機関別に最高65.3%から最低43.8%と約20%の開きが認められ、職域専門検診機関の精検受診率が低かった。年代別には若年者の精検受診率は職域・地域とも極めて低いが、高齢者は職域の方が10～13%低く、特に職域の精検受診率向上が課題である。

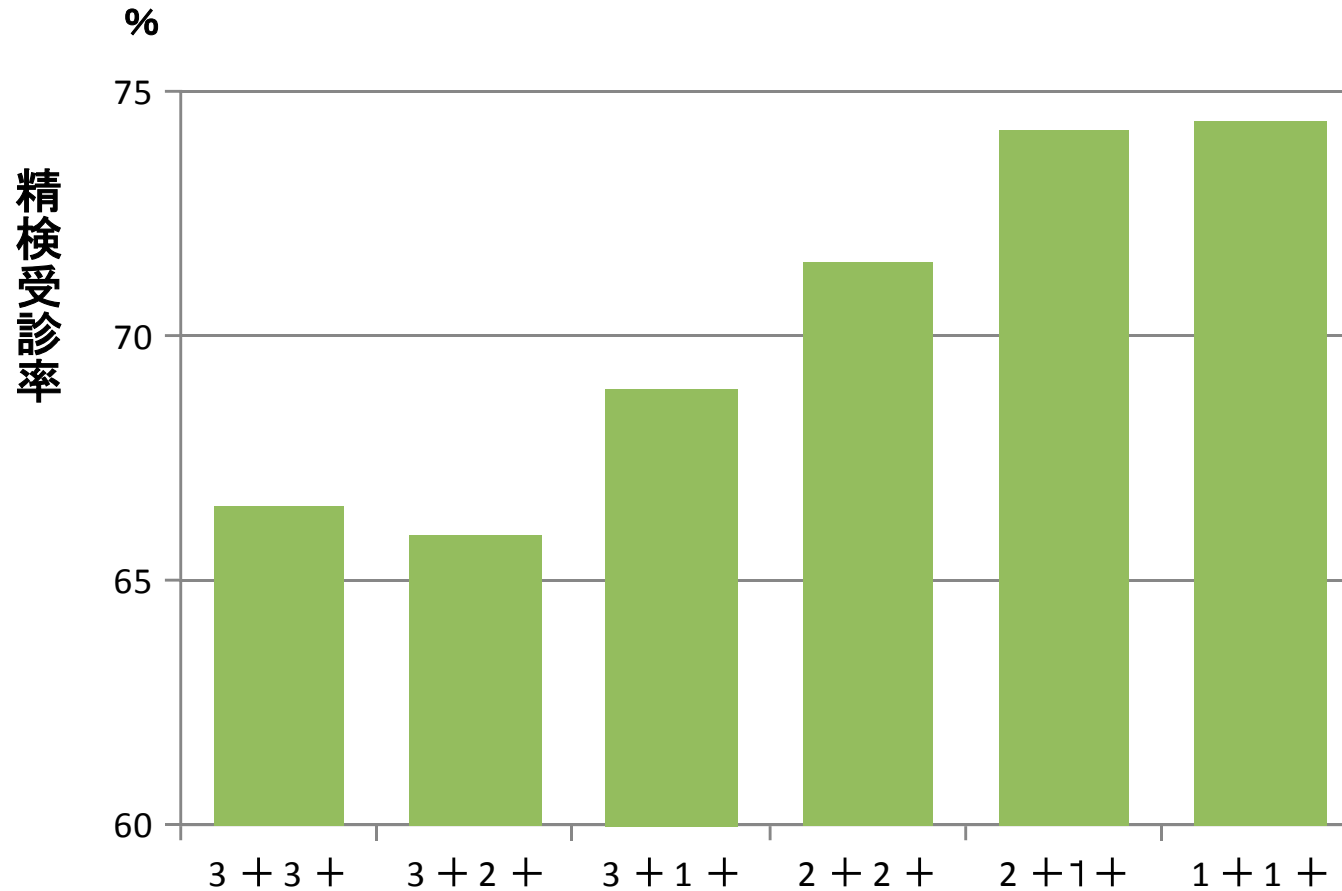
@**陽性反応的中率**は男女、年代別に明らかに地域のほうが高く、分析を含めて今後の課題である。

大腸がん精検受診率



山形県・山形県医師会

ハイリスク度と精検受診率



(H16~H20年:便潜血反応2日間とも陽性者)

陽性の度合いが高いほど精検受診率が低い。

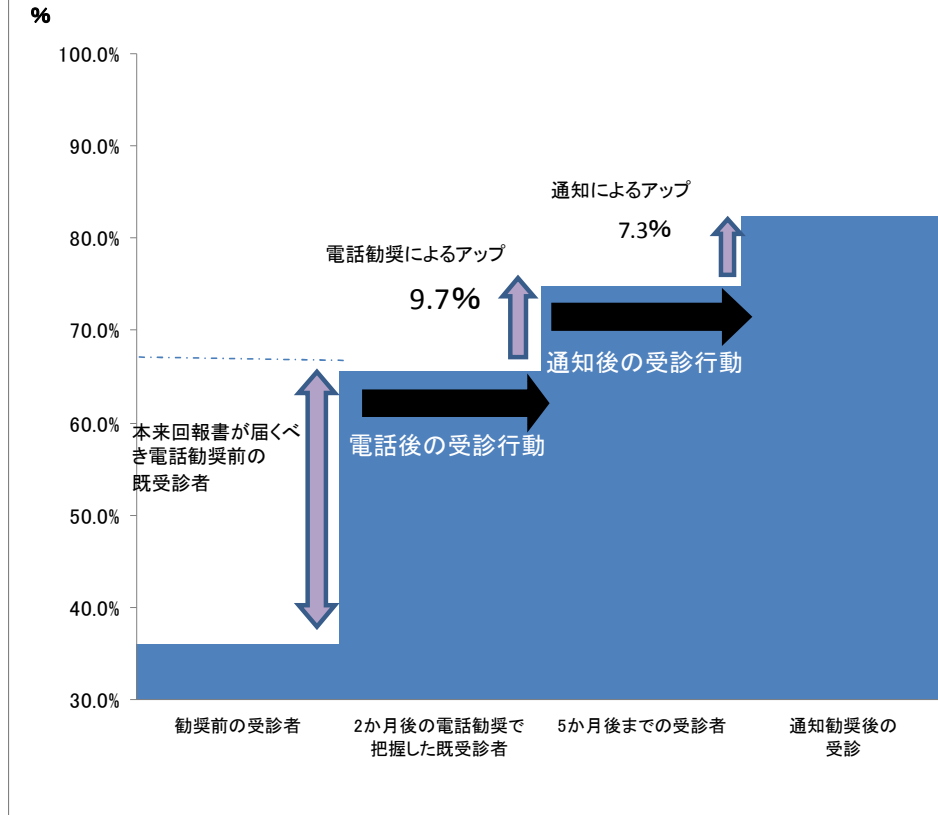
鶴岡市の精検受診向上対策

平成23～24年度特に受診率の低い働きざかりの受診向上と、精密検診受診勧奨の強化事業を実施

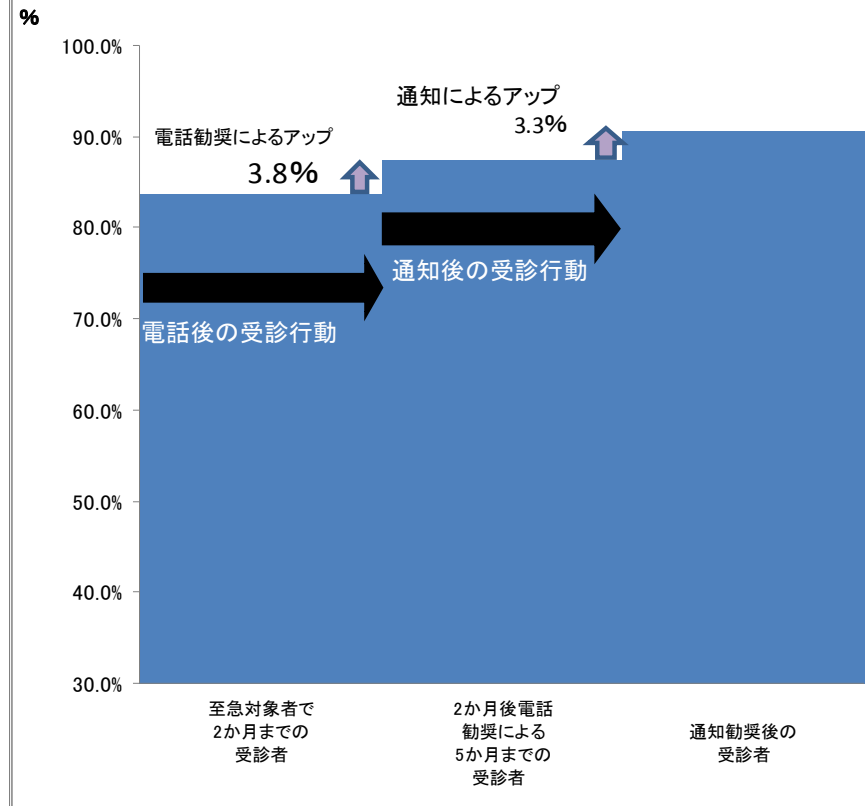
＜精密検査勧奨フロー＞

- ① **ハイリスク者への電話勧奨：結果到着後3～4日以内**
(地区担当保健師)
- ② 2ヵ月後未受診者への日中電話勧奨(地区担当保健師)
- ③ 3ヵ月後未受診者(日中未連絡者含む)へ夜間電話勧奨
(業務担当保健師)
- ④ 4ヵ月後ハイリスク者で未受診への勧奨(日中：地区担当、
夜間：業務担当)
- ⑤ 5ヵ月全がん未検診者への通知勧奨

大腸がん精検対象者 1522名 勧奨結果



大腸がん精検至急対象者 183名(12.0%) 勧奨結果



(平成25年度)

精検受診勧奨にもコール&リコール対策が生きる。
それも迅速な対応が効果的

山形県と【全国】の比較

- 大腸がん検診を毎年受診: **52%**【36%】
- 大腸がん検診を未受診: **21%**【30%】
- 大腸がん検診内容を知っていて未受診: **11%**【15%】
- 大腸がん検診内容を知らないで未受診: **40%**【48%】
- 職場に大腸がん検診が有り、毎年受診: **84%**【78%】
- 職場に大腸がん検診が無く、毎年受診: **19%**【18%】
- 大腸がん検診が陽性なら半年以内に受診: **76%**【70%】
- 大腸がん検診の未受診理由で全国値と差が大きいのは「検診内容が分からないから」: **22%**【18%】

小括2

- * ニュースレターによる周知
- * 県医師会主導の精検受診向上の諸対策
特にハイリスク者の受診誘導
- * 地域では保健活動で成果が出せた。
- * 精検の未受診理由で全国値との差が大きいのは「検診内容が分からないから」22%

内容

QC委員会メンバー

鶴岡地区医師会

特に消化器検診委員会

荘内地区健康管理センター

(医師会立の健診センター)

鶴岡市立荘内病院

鶴岡市・三川町

NPOブレイブサークル運営委員会

(<http://www.bravecircle.net/index.html>)

庄内保健所

イベントやグッズ



大腸がんクイズラリー



検診説明資材



ポスター



のぼり旗



ポケットティッシュ



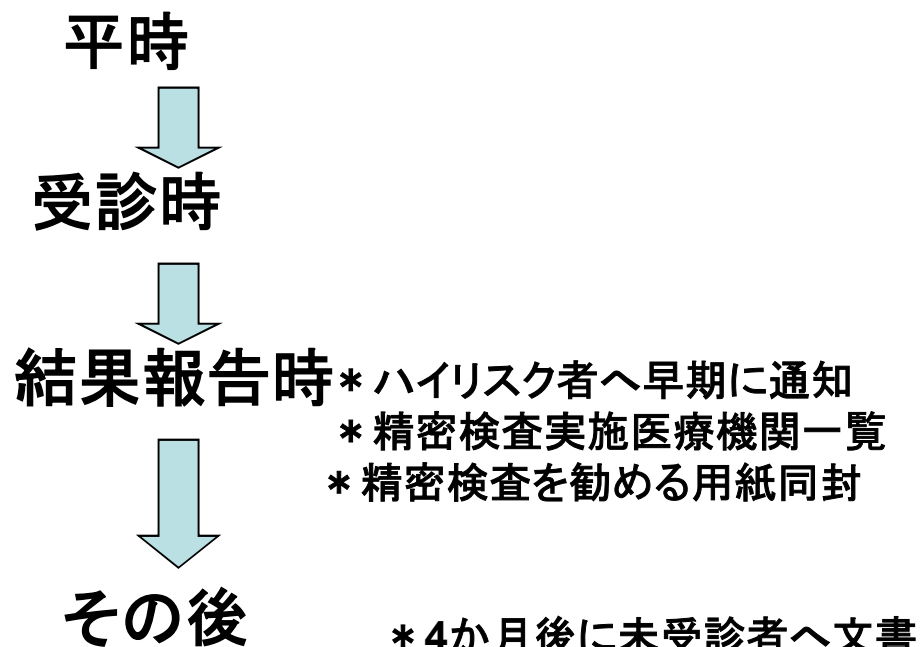
トイレットペーパー

精検受診向上事業

今まで



現在



- ①精検受診勧奨(啓蒙活動・講話など)
・健診センターでの講演や経営者への講話
- ②内視鏡技術研修会(メディアへ掲載)

- ①検診前精検受診勧奨(リーフレット)
(申し込み者への事前添付)

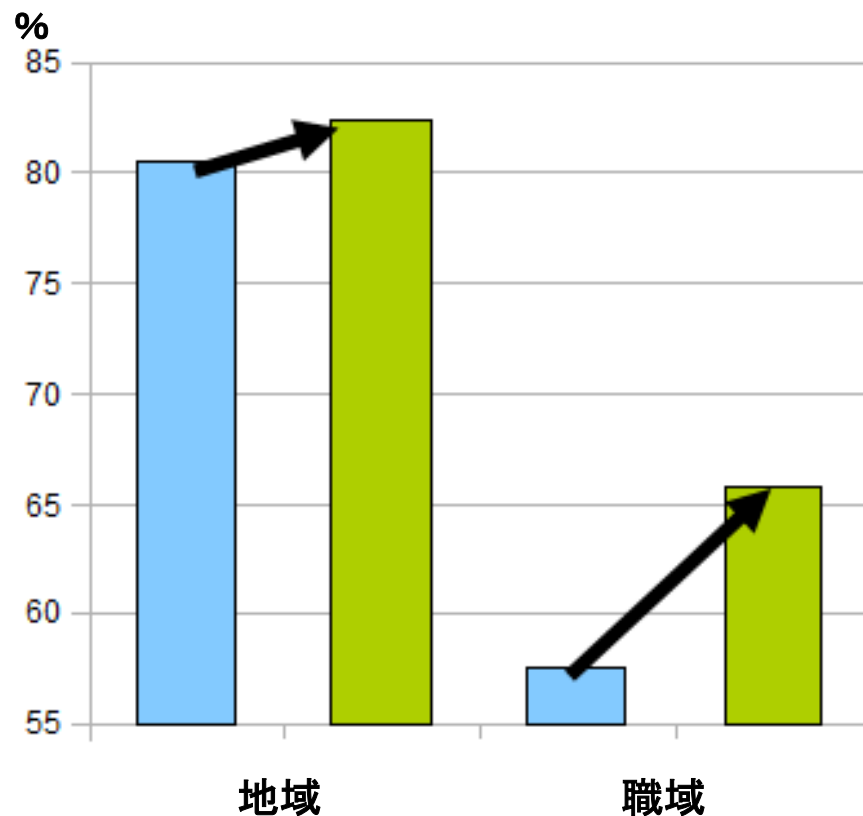
- ①ハイリスク者へ早期に電話で受診勧奨
(医療機関への予約代行も)

- ①3か月:文書(一か月早めた)
- ②4か月:夜間電話
- ③連絡未者へ文書

→医療機関で精密検査受診に至った理由をアンケート調査実施中

結果と課題

精検受診率の中間集計結果



荘内地区健康管理センター
(H25年、26年:8月集計)

一昨年と同期の中間値では地域検診の精検受診率は前年の**1.8%増**の82.4%、職域は**8.3%増**の65.8%となった。増加要因の検討は精検受診者へのアンケートによる解析を予定中。

大腸内視鏡受診理由

416例からのアンケート結果(複数回答可3択)

当然		233
健康不安		97
勧められた	健診センター	80
	不明	42
	市役所・役場	19
	職場担当者	12
勧めていた	広報	5
	テレビ	3
	パンフ・ネット・他	1
講演会		1

精検方法が内視鏡であることを知ったのは

416例からのアンケート結果(複数回答可3択)

もともと知っていた	261
結果通知時	160
申し込み時の説明	54
新聞・テレビ	30
知らなかった	17
検診案内	13

まとめ

- 1) 域内の諸機関の連携により大腸がん検診の精検受診向上策は成果を上げているように見える。
- 2) 職域の精検受診率も向上が可能で、今後成果を持続・向上させる為に、精検受診者へのアンケート調査の解析により実施項目を検討する予定
- 3) 職域のがん検診受診向上のためには、法的な取り扱いが重要で、「労働安全衛生法」へのがん検診の記載を模索する為に何が必要か幅広く議論し、道筋を立てる必要がある。